

## 特別講演 1

### 「糖尿病・脂質異常症と MASLD/MASH 診療 2024」

大阪大学大学院医学系研究科

生体物理工学講座病態超音波医学研究室教授

鎌田 佳宏 先生

昨年 6 月に脂肪性肝疾患 (SLD) の名称変更の提案が世界各国の肝臓関連学会によって行われ、日本語病名が今年 8 月に承認された。NAFLD は代謝機能障害関連脂肪性肝疾患 (MASLD) へと変更された。また従来の NASH は代謝機能障害関連脂肪肝炎 (MASH) へと名称変更された。本邦での我々の報告も含め、世界各国から多数のコホートを対象として NAFLD と MASLD の比較が行われたが両疾患は 95~99% が一致するため、MASLD は NAFLD と同一疾患と考えて良いものと思われる。我々は最近本邦の多施設共同研究 (CLIONE Asia study) で我が国における SLD の現状について報告した (Clin Gastroenterol Hepatol 2023)。日本人 NAFLD 1,398 名の予後を平均 4.6 年間観察したところ、死亡者の死因は他臓器がんが最も多かった。イベントは肝疾患関連イベントが多く、次に心血管病イベントが続いた。全死亡、肝疾患関連イベント、肝細胞がん発生は肝線維化進展に伴い増加することが明らかとなった。メタボリックシンドローム合併 MASLD は SLD の中で高危険群である。特に糖尿病を合併する MASLD 患者はその半数以上が MASH であり、4 割ほどが線維化進展症例である報告もなされている。本講演では糖尿病・脂質異常症と MASLD/MASH 診療について我々のデータと最新の知見を元にお話したい。